

香南市まちづくりフォーラム

9月22日(土)に香我美市民館で「香南市まちづくりフォーラム」が開催されました。

フォーラムの第1部では、広島県安芸高田市でまちづくりに活躍されている川根振興協議会の会長、辻駒健二さんを迎え「今、なぜまちづくりなのか」と題して記念講演を行いました。また、第2部では、「深めよう絆! つながろう人と人!」をテーマに、香南市内のまちづくり協議会、自治会の代表者4人がまちづくり活動について発表を行い、辻駒氏や高知大学副学長の受田浩之先生、清藤市長を交えて意見交換が行われました。

第1部

記念講演

「今、なぜまちづくりなのか」

広島県安芸高田市

辻駒さんの地元である高宮町川根地区は、高齢化や少子化問題、道路問題、そして過疎化の進行など、さまざまな地域課題がありました。

その課題を行政だけに頼っていたら自分たちの地域はなくなると言う危機感を持つて、自治組織を立ち上げるようになったそうです。

そのような折、地域が大規模な水害に見舞われ、過疎化にいつそう拍車がかかりましたが、「住民が心まで過疎になってはいけない」と、この災害復旧に自分たちでできることを行い、より団結の強い地域へと成長されたそうです。

今回は、そのような地域が実行してきた数々の実践を紹介していただきました。

過疎地域から全国へ情報発信

要求型から提案型へ

川根地区は広島県安芸高田市の北部に位置する集落です。少子高齢化が進み、人口も1946年の2,198人から、現在は580人と、60年で3分の1まで減りました。小中学校の統合も相次ぎ、厳しい現実と向かい合っています。

川根振興協議会が発足したきっかけは、1972年に地域を襲った洪水被害です。「行政に頼っていたら、地域はなくなる。他人事のように行政に頼るのではなく、自分たちの地域は自分たちで守る」という意識から住民組織を立ち上げました。年会費500円の全戸加入の組織です。全員加入であることが重要です。初めは「行政にさせんといかん」、「住民に言わ

れたことはせんといかん」という要求型の組織でしたが、自分たちが議論をして、決定をして、自分たちでやるという提案型の自治の実現を目指して、実践を重ねてきました。

嘆くより行動する

例えば、自分たちの地区を走る県道は1車線のままで他の地域は2車線になっている。なぜ事業が入ってこないのか。考えたら自分たちは嘆くだけで何もしていませんでした。自分たちでどのようにすれば住みよい町になるか、若者が帰ってくる町になるかをもっと考えないといけない。

このときは自分たちで道路計画を立てて用地交渉も行いました。そうすることで道路もでき、住みやすい町へとなっていきました。



▲(上)川根地区について話し合う地元の人々
(下)具体的に話し合うため地域の模型も作成(資料より)



▲道路沿いに自分たちで作った地域の看板(資料より)

自分たちがどう生きるかを自分たちで考える

住民タクシー「もやい便」

自分たちの地域は市役所本庁舎から車で40分もかかる場所、病院も本庁の近くにある。タクシーで往復すれば2万円もかかってしまう。また、公共交通は本数が少ないため、行きたい時間に行けない。だから自分たちの地域で運転手を募り、車の提供を行政に提案しました。そうやって自分たちでできることを行い、行政にしてもらいたいことを提案していけば、全てを要求するよりも、実現が早く、継続的に事業を行うことができます。

住民と行政で地域を豊かに

また、地域の中学校が統合により廃校になった時も、残った建物は自分たちの母校ですが、それを保存するだけでは何も生まれません。新しい文化を起こそうと、複合施設の建設を行政に提案しました。管理・運営は地域で行い、宿泊

施設、レストランの経営は何とか黒字でやっています。自分たちがどうしたいかを行政に提案したことで、雇用が生まれ、観光客が来て、地域が元気になりました。このように自分たちが住む地域をどのようにしたいかを真剣に考えることが大事になってきます。

まちのことを想う

みんな誰でも年をとります。だから年寄りが安心して暮らせる地域を作らなければなりません。そのためにも自分たちで何ができるかを考える。行政は手段として、目的は自分たちで考え、協働でまちづくりを行っていくべきです。自分たちが考えていかなければ行政だけでは解決できません。自分たちの力でここに住んで良かったと思おう町にしましょう。

協働のまちづくりを目指して

フォーラム前日には、香南市職員を対象とした研修も行われました。2日間の講演を合わせて約300人が辻駒さんの話の中から、いかにまちづくりが大切かを学びました。香南市でも行政と地域が協働のまちづくりを行っていくように、引き続き取り組んでまいります。

第2部

パネルフォーラム

「深めよう絆! つながろう人と人!」

パネリスト
◆岸本地区まちづくり協議会 副会長 井上準二さん
◆山北地区まちづくり協議会 会長 安本哲夫さん

◆みどり野地区まちづくり協議会 副会長 眞辺慶一さん
◆吉川町錦地区自治会 会長 西山佳成さん

パネルフォーラムでは、講演をしていただいた辻駒さんにアドバイザーを、コーディネーターに高知大学副学長の受田先生を迎え、清藤市長や、香南市内の3つの協議会、1つの自治会の代表者と一緒に、まちづくり活動について意見交換が行われました。

また、環境整備や美化活動を主に行っている錦地区については、今後の活動に防災活動を取り入れることで地域全体を巻き込んでみては、という提案がなされ、南海地震を意識した意見も出ていました。最後にコーディネーターの受田先生から、「地域の将来をそれぞれが地域が夢に抱き、ビジョンを描いていく。それがあれば、地域をどのようにしていくかというシナリオが描ける。普段から将来のまちづくりを一人ひとりが真剣に考えるところから出発することが大切」という、提言でフォーラムが締めくくられました。

「参加者の感想」

★あきらめの姿勢ではなく、どんな思いを伝えていく、変えていくと言う強い思いをみんなを持って行けるように努力しようと思う。

★講演を聴かしていただいて勉強になりました。自分の住んでいる町をもっともっと良くしていきたい思いが、より強くなりました。



川根振興協議会 会長 辻駒健二さん